

## 寄贈図書リスト

宇宙 137 億年解説, 吉田直紀, 四六判, 160 頁, 2,400 円+税, 東京大学出版会

ビジュアル天文学シリーズ, 星空の 400 年, Govert Schilling, Lars Lindberg Christensen 著, 縣 秀彦・関口和寛 訳, 140 頁, A4 変型, 3,800 円+税, 丸善株式会社

ビジュアル天文学シリーズ, 見えない宇宙を観る,

Lars Lindberg Christensen, Robert Fosbury, Robert Hurt 著, 岡村定矩 訳, 154 頁, A4 変型, 3,900 円+税, 丸善株式会社

宇宙の謎に挑むブレンワールド, 白水徹也, 184 頁, 四六判, 1,400 円+税, 株式会社化学同人

ここまでわかった新・太陽系, 井田 茂・中本泰史, 290 頁, 新書判, 952 円+税, ソフトバンククリエイティブ株式会社

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

## 人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

## 国立天文台研究員

国立天文台では, 若手研究者に自主的な研究の場を提供し, 多くの研究成果を挙げることを通じて研究者としての基盤を確立していただくことを主たる目的として, 「国立天文台研究員 (一般枠およびプロジェクト枠)」を以下の要領により公募いたしますので, 奮ってご応募ください。なお要領には, すべての研究員に共通の事項と, 各々の枠で異なる事項がありますので, ご留意ください。また, 一般枠とプロジェクト枠との併願, 複数のプロジェクト枠への併願 (ただしプロジェクト枠の項の説明を参照のこと) は, いずれも可能ですが, 併願している旨を明記してください。

### <国立天文台研究員公募要領>

(共通事項)

1. 募集人員 若干名  
2. 着任日: 平成 22 年 4 月 1 日以降, ただし平成 22 年 9 月 30 日までは着任しなければなりません。

3. 任期: 原則として着任日より 3 年間ですが, 年度ごとに業績評価を受け契約を更新していただくこととなります。

また, 平成 16 年 4 月以降, 既に国立天文台研究員として勤務した期間がある場合は, 通算勤務期間が 5 年を超えないように設定されます。

4. 再任: 審査の上, 1 回に限り, 再任が可能。再任後の任期は半年以上 2 年以下。ただし, 通算勤務期間に関する前項の但し書きが同様に適用されます。

5. 身分・待遇: 短時間契約職員として採用され, 大学助教相当の時間単価 (期末手当等も含む) で週 30 時間の給与及び交通費が支給されます。

6. 応募資格

博士の学位を取得した者または平成 22 年 3 月 31 日までに取得見込みの者。

なお, 平成 22 年 9 月 30 日までに取得見込みの者は, その旨を記載のこと。

7. 提出書類: 応募書類は返却しませんので, 写しで構いません。

(1) 履歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文と, その他を区別し, 共著論文の場合は著者名を全て明記すること), (4) 主要論文の写し (3 編以内), (5) 研究計画書, (6) 推薦書 (ある場合のみ添付)

8. 応募締切: 平成 21 年 12 月 17 日 (木) 必着

(個別事項)

1. 一般枠

募集分野・職務内容: 国立天文台の全ての分野 (詳細は国立天文台のホームページを参照のこと) において, 優れた研究成果を挙げることを期待します。な

お、研究計画書に希望の分野・勤務地を明記してください。また、併願の場合は、それぞれの研究計画書を用意してください。

採用後の受け入れ責任者を国立天文台の研究教育職員の中から指定してください。採用後は、受け入れ責任者の所属する研究部、プロジェクト等に所属していただきますが、プロジェクト、センターに所属する場合でも、業務の義務を課されることはありません。また、事前に受け入れ責任者と研究内容について相談しておくことを推奨します。

応募上の注意：封筒の表に「国立天文台研究員（一般枠）応募書類在中（〇〇分野）」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること（e-mailでの送付は受け付けません）。分野は、たとえば、光赤外、電波、理論、太陽、VLBI、惑星科学など、国立天文台の研究分野を参考に、各自、適当な分野を指定してください。複数指定することも可能です。

提出先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 観山正見

問合せ先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台副台長（総務担当）桜井 隆

Tel: 0422-34-3936

e-mail: sakurai.takashi@nao.ac.jp

## 2. プロジェクト枠

勤務時間の半分までは、所属するプロジェクト・センター等の長と相談の上で、所属プロジェクト等の業務を行う義務があります。複数のプロジェクト枠への併願は可能ですが、希望する順を書いてください。最終的にプロジェクト等から選考委員会へ推薦される候補者は、プロジェクト間で重複しないように調整されることにご留意ください。

### ○ハワイ観測所

募集分野・職務内容：ハワイ観測所では、すばる望遠鏡による共同利用を実施し、多様な天文学研究を進めるとともに、新装置の開発や将来計画の検討を進めている。本プロジェクトでは、すばる望遠鏡を用いた観測研究や開発研究を積極的に進める研究員を募集する。

研究員には、自身の研究とならんで共同利用に関する観測所の業務を一部担当してもらう。その主な内容は、すばるによる共同利用の支援、すばるによる戦略観測の推進、すばるに関する広報活動、計算機運用支援、各種研究会やユーザーズミーティングの世話人等である。

勤務地：東京都三鷹市

ただし、ハワイ観測所（米国ハワイ州ヒロ市）への長期（3カ月以内）出張による業務も複数回ありうる。

応募上の注意：封筒の表に「国立天文台研究員（ハワイ観測所枠）応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台ハワイ観測所（三鷹）野口邦男

Tel.: 0422-34-3519

e-mail: kunio.noguchi@nao.ac.jp

### ○野辺山宇宙電波観測所（ASTEを含む）

募集分野・職務内容：野辺山宇宙電波観測所の45 m電波望遠鏡またはASTE（アタカマ・サブミリ波望遠鏡実験）の技術開発、観測運用または関連装置開発などを行いながら、自身の観測的または開発的研究を推進する若手研究者を求めます。特に、45 m鏡の新観測システム（新世代の受信機や分光計や、解析ソフト）の開発や、ASTE用の連続波カメラやサブミリ波受信機の開発などが重点課題です。希望する業務があれば、関連するこれまでの開発研究の経験と共に研究計画書に記述してください。勤務時間のおよそ半分は観測運用や装置開発などの業務を行う義務を負います。なお、研究計画書には、携わる観測装置を明記するとともに、携わる観測装置を併願する場合は、それぞれの計画書を提出すること。

勤務地：長野県南佐久郡南牧村野辺山

（ただし、チリへの長期出張もありうる）

応募上の注意：封筒の表に「国立天文台研究員（野辺山宇宙電波観測所枠）応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先：

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2

国立天文台野辺山宇宙電波観測所長 川辺良平

Tel: 0267-98-4400

e-mail: ryo.kawabe@nao.ac.jp

### ○野辺山太陽電波観測所

募集分野・職務内容：野辺山太陽電波観測所では、電波ヘリオグラフとマイクロ波帯の強度偏波計群による太陽観測を行い、これらのデータと衛星や地上観測のデータを併せた多波長データ解析によって、太陽活動特にフレアにおける粒子加速の研究を行っている。また、取得したデータを公開し、国内外の研究者の共同利用に供している。本研究員は観測に参加するとともに、共同利用のためのソフトウェア開発、データ整理、および外部ユーザーへのサービスにあたる。特に、国内の大学等のユーザーの共同利用を推進する。また、電波データを用いた太陽活動

の研究にたずさわる。

勤務地：長野県南佐久郡南牧村野辺山

応募上の注意：封筒の表に「国立天文台研究員（野辺山太陽電波観測所）応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先：

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2  
国立天文台野辺山太陽電波観測所長 柴崎清登  
Tel. 0267-98-4488  
e-mail: shibasaki@nro.nao.ac.jp

○水沢 VLBI 観測所

募集分野：水沢 VLBI 観測所では、超長基線電波干渉計 (VLBI) を用い、下記の研究を推進しています。それぞれの研究分野において意欲的に研究を推進する研究員を求めます。

(A) VERA 計画：日本国内 4 か所（岩手県奥州市、鹿児島県薩摩川内市、東京都小笠原村、沖縄県石垣市）に口径 20 m 電波望遠鏡を設置し、2 ビーム VLBI 観測による位相補償を行うことで、メーザー天体などの高精度の位置天文計測を行い、天の川銀河系の構造・運動を明かにする。さらに星形成領域や晩期型星の周囲のガスの運動状態を 3 次元的に明らかにし、進化と構造の研究を進める。このための研究を推進し、観測システムのさらなる高精度化のための観測方法・解析方法の研究を行う。

(B) VSOP-2 計画：JAXA 宇宙科学研究本部と共同で、スペース VLBI 観測を行うための人工衛星 (Astro-G) を建設し、空間分解能 40 マイクロ秒角の観測により主に AGN のジェット・降着円盤などの構造を明かにし、進化と発生メカニズムの研究を行う。さらに、系外のメーザー天体の観測を行い、銀河の運動などを明らかにする。このために、打ち上げ前の予備的な研究を推進するほか、衛星開発や地上観測システム・データ解析システムの構築に参画する。

(C) 国内 VLBI 観測網：全国 6 大学・3 機関が設置もしくは運用する電波望遠鏡により VLBI 観測を推進し、VLBI 観測としては高感度の観測により低高度 AGN や系内メーザー天体・系内ブラックホール天体の研究を行う。さらに東アジア VLBI 観測網の構築を行う。このための研究を推進し、システムの性能改善のための研究を推進する。

(D) 光結合 VLBI: VLBI 観測手法の大きな飛躍として、光ファイバーによる大容量データ伝送技術が実用化されている。この方法によって結合された国内 VLBI 観測局による高感度 VLBI 観測・突発現象の

VLBI 観測を推進するとともに、光結合 VLBI 観測のための機器開発を行う。

(E) 地球物理研究：VLBI 観測および GPS 観測によって求められる高精度の観測局位置の計測を行い、測地学的な手法により地球物理研究を推進する。特に、重力計などの観測を加えることにより上下変動の高精度計測手法の研究などを推進する。

勤務地：東京都三鷹市もしくは岩手県奥州市で、採用後の研究・勤務内容によって定める。

応募上の注意：採用後に主に従事したい研究分野を上記の中から明記すること。

封筒の上に「国立天文台研究員（水沢 VLBI 観測所）応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先：

〒023-0861 岩手県奥州市水沢区星が丘 2-12  
国立天文台水沢 VLBI 観測所長 小林秀行  
Tel. 0197-22-7128 (水沢), 0422-34-3914 (三鷹)  
e-mail: hideyuki.kobayashi@nao.ac.jp

○天文シミュレーションプロジェクト

募集分野・職務内容：天文シミュレーションプロジェクトでは、Cray XT4, NEC SX-9, GRAPE 等のスーパーコンピュータシステムの共同利用を推進し、また将来へ向けての研究開発（例えば、天の川創成プロジェクト、専用計算機開発など）を進めています。

本プロジェクトでは、共同利用と研究開発を推進する研究員を募集します。その主な業務は、以下のとおりです。

- (1) 共同利用計算機の運用と環境向上のための研究開発
- (2) 大規模シミュレーションによる研究推進  
勤務時間のおよそ半分を上限として、これらの業務に従事していただくこととなります。

勤務地：東京都三鷹市

応募上の注意：封筒の表に「国立天文台研究員（天文シミュレーションプロジェクト）応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。問い合わせを行う場合には「国立天文台研究員（天文シミュレーションプロジェクト）応募の件」という旨を冒頭に明記すること。

提出先：〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト  
牧野淳一郎

問合せ先：国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト 伊藤孝士

e-mail: ito.t@nao.ac.jp

FAX: 0422-34-3840

#### ○ひので科学プロジェクト

募集分野・職務内容: ひので科学プロジェクトでは、太陽観測衛星「ひので」搭載の3望遠鏡(SOT, XRT, EIS)のデータの解析に基づいた太陽天体プラズマ研究を推進し、同時に次期太陽観測衛星の計画立案に積極的に参加する研究員を求めます。研究員にはこの他、「ひので」の科学運用(観測)にも参加して戴きます。

勤務地: 東京都三鷹市

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員(ひので科学プロジェクト枠)応募書類在中」と朱書し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台 ひので科学プロジェクト長 常田佐久  
Tel.: 0422-34-3720  
e-mail: saku.tsuneta@nao.ac.jp

#### ○RISE 月探査プロジェクト

募集分野・職務内容: RISE 月探査プロジェクトでは、2007年に打ち上げられ2009年まで運用した、月探査衛星かぐや(SELENE)において、リレー衛星、VLBI 衛星、レーザ高度計による、月の重力・地形の高精度観測を行い、世界初の正確な月全球地形、月裏側の重力分布を取得しました。また、次期月探査、火星着陸探査計画など将来の月惑星探査に向けた研究・機器基礎開発も行っています。本プロジェクトでは、「かぐや」による月重力場および地形データの解析と共同利用体制のサポート、および将来月惑星探査の研究・開発を推進する研究員を募集します。

勤務地: 岩手県奥州市もしくは東京都三鷹市

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員(RISE 月探査プロジェクト枠)応募書類在中」と朱書し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先:

〒023-0861 岩手県奥州市水沢区星ガ丘町 2-12  
国立天文台 RISE 月探査プロジェクト長 佐々木晶  
Tel: 0197-22-7139  
e-mail: sho@miz.nao.ac.jp  
http://risewww.mtk.nao.ac.jp/

#### ○ALMA 推進室

募集分野・職務内容: ALMA は、2009年9月に山頂サイトに最初のアンテナが移動し、2010年初めから、山頂での観測システムの科学評価活動が本格化

します。2011年には、初期科学運用も予定されており、いよいよALMAを使った観測活動が本格化します。それに備え、東アジアのALMA地域センター(EA-ARC)では、国内で各種ユーザー支援の業務を行うと共に、チリサイトでの観測システムの評価活動に出張ベースで参加します。EA-ARCでは、これらの業務を行いながら、以下のいずれかの分野を担当していただく研究員を募集致します。ALMAで得られる初期データを十二分に活用することのできる意欲ある人材を広く求めます。

(A) 科学評価活動による初期データを活用し、日本や台湾の研究者と協力して、初期及び本格運用に向けたサイエンスプロジェクトを立案・推進し、いち早く成果に結び付ける。

(B) 日本が担当するアンテナや関連器、及び、ACA(アタカマコンパクトアレイ)システムの現地での評価活動を通して、ALMA望遠鏡システムの較正法や、干渉計モード・単一鏡モードでの観測運用に関する研究開発を推進する。

勤務地: 東京都三鷹市

(ただし、チリ、欧州、北米、台湾等に出張の可能性があります。)

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員(ALMA推進室枠)応募書類在中」と朱書し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先: 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台 ALMA 推進室長 立松健一

問合せ先: 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台 ALMA 推進室 奥村幸子

電話: 0422-34-3782

e-mail: sokumura@nro.nao.ac.jp

#### ○重力波プロジェクト

募集分野・職務内容: 重力波天文学の実現に向けたLCGT計画の推進や検出器高感度化の技術開発、スペースで低周波重力波の検出をねらうDECIGO計画のための基礎実験など、重力波検出のための開発研究に参加する若手研究者を求めます。勤務時間のおよそ半分はプロジェクトとしての開発研究や院生等の指導・実験補助、プロジェクト推進などの業務を行う義務を負っていただきます。

勤務地: 東京都三鷹市

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員(重力波プロジェクト枠)応募書類在中」と朱書し、郵送の場合は簡易書留で送付すること(e-mailでの送付は受け付けません)。

提出先・問合せ先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台 重力波プロジェクト推進室長 藤本真克  
Tel: 0422-34-3622  
e-mail: fujimoto.masa-katsu@nao.ac.jp

○天文データセンター

募集分野・職務内容: 国立天文台天文データセンター (ADC) では、以下の分野について、研究員を募集します。

(A) SMOKA (<http://smoka.nao.ac.jp>) の運用と開発  
ADC では、その研究活動の一環として、すばる望遠鏡や岡山天体物理観測所 188 cm 望遠鏡、東大木曾観測所シュミット望遠鏡、東工大 MITSuME 望遠鏡群の観測データを公開し、天文学研究や教育活動を推進しています。SMOKA の効率の運用を進めるとともに、高度検索機能や他のデータベースとの連携、データ品質評価、較正などの開発に積極的に取り組む意欲をもった若手研究者を求めます。

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員 (天文データセンター枠) 応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先・問合せ先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台天文データセンター長 水本好彦  
Tel: 0422-34-3760  
e-mail: mizumoto.y@nao.ac.jp

○先端技術センター

先端技術センターでは、主に可視光・赤外線天文学および電波天文学分野での開発研究を行っています。センターで現在実施されているプロジェクトのみならず、将来必須となる基礎技術の開発研究を行う研究員を募集します。なお、開発的研究のみならず、それと関連する観測的研究を合わせて行うことも可能です。募集分野:

(A) 可視光赤外線天文学分野

光赤外グループでは、すばる望遠鏡用次世代観測装置の開発を行っています。さらに、今後共通の基盤技術 (検出器開発、冷却光学機械系設計製作等) の蓄積をはかり、光赤外コミュニティの装置開発を支援できる体制作りを目指しています。自らの天文学研究のテーマをもち、それを達成するために新しい技術開発を行う意欲のある人を求めます。

(B) ALMA バンド 10

ALMA バンド 10 (787-950 GHz) 受信機の開発を進めています。テラヘルツ帯における SIS ミキサや

入力光学系などの要素技術の開発を意欲的に進める若手研究員を求めます。勤務時間のおよそ半分はバンド 10 受信機の研究開発に従事する義務を負っていただきます。

(C) 電波カメラ

次世代のミリ波・テラヘルツ帯の広視野・高感度観測を目指した超伝導電波カメラの開発を行っています。超伝導デバイス・入力光学系・読出し回路などの要素技術またはシステムの設計・製作・評価を行う若手研究者を求めます。

勤務地: 東京都三鷹市大沢

応募上の注意: 封筒の表に「国立天文台研究員 (先端技術センター枠) 応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

提出先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台 先端技術センター長 常田佐久

問合せ先: 先端技術センター

(A) 宮崎 聡

電話: 0422-34-3871  
e-mail: satoshi@subaru.naoj.org

(B) 鶴沢佳徳

電話: 0422-34-3807  
e-mail: y.uzawa@nao.ac.jp

(C) 関本裕太郎

電話: 0422-34-3784  
e-mail: sekimoto.yutaro@nao.ac.jp

## 弘前大学大学院理工学研究科助教

1. 助教 1 名
2. (1) 理工学研究科 (理工学部物理科学科併任)  
(2) 青森県弘前市
3. 理論物理学
4. 学部と大学院の物理教育・研究を行う。
5. (1) 2010 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期  
(2) なし
6. 着任時に博士の学位を有すること
7. (1) 履歴書 (写真貼付), (2) 発表論文リスト (研究論文, 解説, 学会講演等), (3) 主な論文別刷 (3 編, コピー可), (4) 研究業績の概要 (A4 で 1 枚程度), (5) 研究計画と教育の抱負 (A4 で 1 枚程度), (6) 照会可能者 2 名の氏名と連絡先
8. 2010 年 1 月 22 日 (金) 必着
9. (1) 〒036-8561 弘前市文京町 3  
弘前大学大学院理工学研究科助教選考委員会  
委員長 宮永崇史

(2) 同上

Tel: 0172-39-3551

e-mail: takaf@cc.hirosaki-u.ac.jp

(できるだけ電子メールで)

10. 簡易書留で郵送のこと。応募書類は返却しない。書類選考後、面接を行う。

### 愛媛大学大学院理工学研究科 数理物質科学専攻 物理学講座助教

1. 助教1名
2. (1) 理工学研究科数理物質科学専攻物理学講座  
(2) 愛媛県松山市
3. 計算物理
4. 研究活動および学部・大学院教育並びに大学運営に関わる業務
5. (1) 平成22年4月1日以降できるだけ早く  
(2) 5年(着任後の業績により再任可)
6. 博士の学位を取得しているか、着任時までに取得見込みであること
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績リスト, (3) 主要論文5編程度の別刷(コピー可), (4) 過去3年間の科研費, 研究助成金, 特許の取得状況, (5) 研究業績概要(1,000字程度), (6) 着任後の研究計画(1,000字程度), (7) 教育に関する抱負(1,000字程度), (8) 推薦書2通あるいは照会可能者2名の氏名と連絡先
8. 平成22年1月15日(金)必着
9. (1) 〒790-8577 愛媛県松山市文京町2-5  
愛媛大学大学院理工学研究科(理学系)  
人事委員会委員長 佐藤成一  
(2) 愛媛大学大学院理工学研究科数理物質科学専攻物理学コース コース長 宗 博人  
Tel: 089-927-9576  
Fax: 089-927-9580(物理事務室)  
e-mail: so@phys.sci.ehime-u.ac.jp
10. 封筒に「物理教員(助教)応募書類在中」と朱書きし、簡易書留でお送り下さい。選考の過程で講演をお願いし、面接を行うことがあります。ただし、旅費は応募者の負担とします。応募書類は選考のみに使用し、選考後は原則として破棄します。  
愛媛大学は、男女共同参画を積極的に推進しています。

### 人事公募結果

1. 掲載号

2. 結果(前所属)

3. 着任時期

### 国立天文台ハワイ観測所望遠鏡サポートサイエンティスト

1. 2008年11月(第101巻11号)
2. 瀧浦晃基(山形大学大学院理工学研究科准教授)
3. 2009年10月1日

### 研究会・集案案内

#### 「世界天文年2009 グランドフィナーレ」開催のご案内

〈期間〉 2009年12月5日(土)~6日(日)

〈主催〉 世界天文年2009日本委員会

〈場所〉 兵庫県公館(5日)/兵庫県中央労働センター(6日)(兵庫県神戸市)

〈URL〉 世界天文年2009日本委員会 HP  
<http://www.astronomy2009.jp/>

〈内容〉 世界天文年2009の終幕を迎えるにあたり、世界天文年を通じて培った天文学と科学の普及活動を未来に繋げ、より一層充実したものとするための大会とします。(詳細は上記HPをご覧ください)

#### 第8回 坂田・早川記念レクチャー 「宇宙の創生とマルチバース」

佐藤勝彦氏(明星大学教授/東京大学数物連携宇宙研究機構教授)

平成21年12月26日(土)14:30~17:00

名古屋市科学館サイエンスホール

対象: 高校生以上

定員: 300名(申込制, 多数の場合は抽選)

受講料: 無料(ただし, 科学館の観覧料が必要です。  
(高校生, 大学生200円/大人300円))講演会ホームページ: <http://www.a.phys.nagoya-u.ac.jp/sakata-hayakawa/>

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は、素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展に寄与し、またノーベル賞受賞の研究者をはじめ多くの人材を育てるなど教育の面においても重要な貢献を果たしてきました。この歴史をふりかえると

き、われわれは、お二人の物理学者、坂田昌一、早川幸男両教授の貢献の大きさを思い起こさずにはいられません。坂田昌一教授が開拓されたクォーク模型やニュートリノ混合などの研究は、小林・益川理論などの素粒子物理学の主流に発展し、早川教授が切り開いたエックス線や赤外線といったさまざまな波長領域での観測天文学は、現在の観測的宇宙論や星間物質に関する成果につながっています。坂田・早川記念レクチャーは、両教授の業績をたたえつつ、21世紀を担う研究者の発掘・育成を目的として設立されました。この趣旨に沿って、名古屋大学大学院理学研究科と名古屋市科学館の共催による記念講演会を開催しています。

第8回となる講演会では、宇宙最初期に光速を超える急膨張の時期があったとするインフレーション理論の提唱者の一人として国際的に著名な佐藤彦氏（明星大学/東京大学数物連携宇宙研究機構）をお招きして、インフレーションから無限に創成される異なった物理法則を持つ宇宙、その中から私たちの宇宙がどのように選ばれてきたのかについてお話をうかがいます。一つ（ユニ）ではなく、多くの（マルチ）宇宙なので、マルチバースです。マルチバースの中の一つにすぎない私たちの宇宙、そこで生命や人類が誕生する条件が整っているのは偶然なのか、それとも必然なのか、科学から哲学的な側面まで奥深いお話がきけるとおもいます。

申込方法：以下のいずれかの方法でお申し込みください。

（申込で寄せられた個人情報は、本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します）

- 1) 講演会ホームページ <http://www.a.phys.nagoya-u.ac.jp/sakata-hayakawa/> からお申し込み。
- 2) 往復はがきに、住所、氏名、高校生・大学生・一般の区分、電話番号、返信部分に申込者の宛名を記入して、〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目 17-1 名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」係まで郵送。

申込締切：2009年12月11日（金）必着

問合せ先：講演の内容等に関する問合せ

名古屋大学理学部 At 研

Tel(052) 788-6193 (担当) 市来

申し込み方法、会場等の問合せ

名古屋市科学館

Tel(052)201-4486

(担当) 天文係 小林, 持田

## 第43回光学五学会関西支部連合講演会のご案内

光学関連五学会の関西支部では、合同で年一回の連合講演会を開催しており、今回で43回目を迎えます。本講演会は、幅広い分野の講師の方々にご講演いただき見識を広め、また、会員の交流を深めることを目的にしております。参加者は専門分野の知識を深めると共に、他分野の最新の研究技術について学ぶことができます。今回は、宇宙に関連する最先端の光関連技術を、第一線でご活躍の講師の皆様にご講演いただきます。

日時：2010年1月30日（土）10:35～17:00

（受付開始 10:10～）

場所：大阪市立大学文化交流センター ホール  
（〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階）

主催：日本光学会（応用物理学会）・照明学会関西支部・日本色彩学会関西支部・日本分光学会関西支部・日本写真学会西部支部

協賛（予定）：電気学会関西支部、電子情報通信学会関西支部、映像情報メディア学会関西支部、レーザー学会、応用物理学会関西支部、日本画像学会関西支部、画像電子学会、日本赤外線学会、日本天文学会

テーマ：「光を介した宇宙との出会い」

参加費：主催・協賛学会員/3,000円

会員外/3,500円 学生/1,000円

（講演会当日にお受けいたします。）講演会の後、1時間半程度、会場付近で懇親会（無料）も行いますので、是非ご参加ください。

申込方法：氏名、勤務先（学校）、住所、TEL、FAX、e-mail アドレス、所属学会を書き、下記へ e-mail または FAX でお申し込みください。

申込先：株式会社 ジーエス・ユアサ・パワーサプライ ライティング事業本部 技術部システム設計グループ 石川勝己 宛

e-mail: katsumi.ishikawa@jp.gs-yuasa.com

FAX: 075-934-2733

（申込の際には、「光学五学会講演会の申込み」と明記ください。）

申込締切：2010年1月20日（水）（定員 90名）

## 現代天文学の最前線—「シリーズ現代の天文学」刊行記念シンポジウム

「いきいきとした天文学の現在にふれる」をテーマ

に、これから天文学を担う若い人に向けて、日本天文学会創立百周年記念事業の一つとして刊行を開始した「シリーズ現代の天文学」が完結を迎えました。それを記念して、世界天文年のフィナーレを飾る12月にシンポジウムを開催します。本シリーズの執筆者でもある、気鋭の天文学者3人が最前線の魅力を語ります。紙上とは違った、臨場感ある「天文学の現在」をお楽しみください。参加者からの質問に答えるパネルディスカッションもあります。(会場では、特別価格での書籍販売を行います)

主催：日本天文学会

後援：世界天文年2009日本委員会・日本評論社

日時：2009年12月20日(日)13:30~17:00

場所：東京大学 小柴ホール(文京区本郷7-3-1  
東京大学本郷キャンパス内)

[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_00\\_25\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_25_j.html)

対象：高校生以上

参加費：無料、定員176名(先着順)

プログラム

13:30~13:50 挨拶・趣旨説明(日本天文学会理事長、編集委員長)

13:50~14:30 吉田直紀(東京大学数物連携宇宙研究機構)

「宇宙暗黒時代を探る」—暗黒宇宙に生まれる星、銀河、ブラックホール

14:40~15:20 須藤 靖(東京大学大学院理学系研究科)

「見えない宇宙の彼方を探る」—ダークマター、ダークエネルギー

15:30~16:10 田村元秀(国立天文台)

「太陽系外惑星を探る」—第2の地球と人類の仲間はいるか?

16:20~17:00 質疑応答(パネルディスカッション)

司会・進行 岡村定矩(東京大学大学院理学系研究科)

17:00 終了

問合せ先：日本評論社・佐藤(03-3987-8599)

## 会務案内

### 【理事会議事録】

日時：2009年9月14日(月)13:10~15:15

場所：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟2F  
会議室

出席者：國枝、柴田、渡邊、竹田、高田、田代、堂谷、

児玉、本間、半田、小川、藤沢、小島、藤本  
(以上14名)

欠席者(書面表決状提出済)：田村(以上1名)

また、東條事務長と宮下次期事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の確認がなされた。

議長：國枝秀世

署名人：高田唯史、竹田洋一

### 報告

#### 1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回(2009年6月13日)の理事会議事録が報告・確認された。

#### 2. 開催中の秋季年会について

藤沢開催地理事と本間年会理事より目下開催中の秋季年会についての進行状況(公開講演会前日の記者会見とマスコミの反応、参加者数、正規セッション、各種企画、など)が報告された。

#### 3. 今後の年会について

来年2010年の年会の準備状況の報告が小島(広島大)、藤本(金沢大)の各開催地理事よりなされた。春季年会(広島大:3月24~27日)は特に問題なく着々と準備が進んでいる。秋季年会(金沢大:9月22~24日)は日程が大学の行事と重なる可能性が懸念されていたがほぼ予定通りになる見通し。さらに、ほぼ確定している今後の年会開催地が竹田庶務理事より再確認された。筑波大学(2011年春)、東北大学(2011年秋)、京都大学(2012年春)、大分大学(2012年秋)。

#### 4. 事業担当理事からの近況報告

半田教育理事から、本年会の公開講演会と天文教育フォーラムについての報告・予告があった。年会時に開催されるこれらの企画およびジュニアセッションに関しては、関連する理事や担当者(教育理事、年会理事、開催地理事、ジュニアセッション担当者など)の間での連絡と実務進行の分担の理解が不整合であることが判明してきたので、今後のために関係者間で調整の上、できるだけ記録に残る形で明確化していきたいとの報告があった。

堂谷PASJ理事によってPASJ関係の報告がなされた。PASJ飛騨天文台特集号を準備中であること、顧問会議の中心となるとりまとめ役としての幹事役を櫻井氏にお願いしたこと、など。2007年の特集号の効果か、2008年のPASJのインパクトファクターが4.4に急上昇しA&Aをも上回ったことは明るいニュースである。

児玉月報理事は天文月報の近況の説明を行った。企画中の特集(あかり、BH時空、公開天文台活動、



世界天文年), 記事投稿のためのアップローダーの新規導入, など。

本間年会理事からは, 年会中の各種団体の会合の情報(場所, 時間)を次期年会から外部への公開の可否等の情報も加えてプログラムに記載できるようにする話が進んでいることが報告され, それに伴う実際上の問題が議論された。

#### 5. 「企画展」と「七夕一斉講演会」について

担当者である半田理事より, 日本天文学会創立100周年・世界天文年2009記念巡回企画展“ガリレオ天体観測から400年 宇宙の謎を解き明かす”について中間報告があった。5月末から行われている同企画展は, 東京・国立科学博物館, 仙台市天文台に続き, 新潟県立自然科学館で開催中で, 各館とも動員数・内容とも好評であることが報告された。今後, 名古屋市科学館, 大阪市立科学館で順次開催され, 1月末まで開催の予定だが, それ以降も希望する科学館などがあれば延長開催することを関係者で検討している旨, 報告があり, 理事会として了承した。

続いて柴田副理事長より7月上旬に行われた七夕一斉講演会に関して入場者へのアンケートの結果も含めた総括としてのまとめの報告があった。今回の聴衆は若い人が半数近くを占めたことは特筆される。一方(7/7は平日だったので)もっと参加しやすい日に行ってほしいという声があったこと, 広報をもっと早くから始めるべきだった, などの反省点も。

#### 6. 理事長公選制

ここ数カ月間理事長・副理事長を中心に検討が続けられている, 会員による選挙によって理事長を決めるという理事長公選制について, 選挙施行細則の試案(資料2)が國枝理事長から説明され, それについて様々な意見の交換があった(推薦人・承諾・所信表明の必要性, 立候補者の数が乏しい場合の措置, など)。

#### 7. その他

##### 7.1 天文学辞典について

「現代の天文学」の最終巻刊行の見通しがについて全巻完結が近づいた現在, 総索引を兼ねた「天文学辞典」の刊行を計画していることが百周年記念出版委員会の岡村委員長の代理として, 資料3に基づき國枝理事長から報告された。現代の天文学17巻と密接に関連する企画なので実施に当たっては全著者の了解も得るべきではとの意見があった。

##### 7.2 男女共同参画関係報告

男女共同参画委員でもある田代会計理事より, 配付資料に基づき男女共同参画学協会の提言に(現提言書案におけるいくつか気づいた点には付言して)天文学会としても基本的に参加することにした旨の

報告があった。

##### 7.3 Web ページ改善に向けたアンケート

天文学会のWebサイトが会員からどのように受け止められているかを調査するために, 7月下旬にメールによるアンケートを実施した結果が配付資料に基づき竹田庶務理事より報告された。更なる改善を期待する意見の一方で, 現行のものでも基本的な役割は十分果たしているという声も出ている。

##### 7.4 入会申請オンライン化と入会審査手続きについて

「Webページからオンラインで入会申請できるようにしてほしい」との声がアンケートで多かったことに鑑み, 来年度から現行の郵便・FAXによる申請書送付の方式に加えてWebからの入会申請も出来るように進めていることが資料4に基づき竹田庶務理事より報告された。また, 現行の入会承認システム(申請に際して同時に会費を払ってもらい, 仮入会扱いにして番号を発行し, 3カ月に一回の理事会で承認されて正規入会となる)はいろいろ問題があるので(入会承認される前に会費を徴収するのは不合理, 理事会の正式承認がほとんど形骸化している上に申請からの時間がかかりすぎる, など), 改善に向けた新たな措置が竹田理事より配付資料に基づき提案された。つまり, 入会申請は一週間ごとにまとめて事務長あるいは庶務理事から申請情報とともに承認の可否の暫定案が理事会メーリングリストに流され, 問題があればML上で議論するが特に異論がなければその案で理事会の正式決定とみなす(会費はその正式承認により入会が決定した後に納入してもらう)というものである。これに対して特に反対意見は出なかったので来年度入会分からこの方向で進めることになった。これによって入会申請から十日程度で承認の可否を理事会として正式決定できる見込みである。

##### 7.5 事務所職員の給与規定や就業規則の策定について

労基署からの指導の兼ね合いもあり, 天文学会事務所の職員の就業規則や給与規定の策定と整備が現在宮下次期事務長を中心に進められていることが竹田理事より報告された。これらの規則は早速2010年からの運用の予定であるが, 具体的な内容のまとめは次回の理事会で報告される。

##### 7.6 会員名簿について

國枝理事長から, 昨年発刊された会員名簿が(個人情報保護に配慮した結果)あまりに空白が目立つ無意味なものになったので会員からの厳しい声が出ており, 来年の名簿をどうするかについてそろそろ

議論と準備を始めないといけないことが述べられた。基本的に会員の所属先程度はデフォルトで出さねばならないことについては意見が一致したが、それ以上の住所や電話番号についてどういう措置をとるかは今後の議論の課題として持ち越された。

7.7 学会行事参加者の旅費・謝金の支給について  
半田教育理事から、年会行事にゲスト講師を招待したときなど学会側からお金を支給する場合の基準として（会員か否かにかかわらず）

1. 年会で自主的申込によって発表を行う人には旅費も謝金も支給しない。
2. 年会行事への参加を学会執行部から依頼した場合には旅費は支給するが謝金は支給しない。というガイドラインが提案された。これをたたき台として会計理事が中心となって正式案を作り、次の理事会に諮る予定。

## 議 題

### 1. 新入会員の承認

資料5に基づき、新規入会予定者のリストが示され、いずれもこのまま承認された。

### 2. 入会申し込み書式

来年度から正会員入会に際して現正会員1名の推薦を課するという方針に基づき、推薦人の欄を設けた新たな入会申請書式が資料6として紹介され（付記事項の文言における若干の修正の必要性が指摘されたが）承認された。

[次の理事会]

次の理事会は2010年1月上旬に行われる予定。

[資料]

資料1. 前回理事会の議事録

資料2. 理事長公選制について

資料3. 天文学辞典について

資料4. Webからの入会申請フォーム

資料5. 新入会員の承認

資料6. 入会申込書の書式

(当日配付分)

- a. 男女共同参画学協会による男女共同参画提言書案と天文学会からの付言（田代）
- b. Webページ改善に向けたアンケート結果（竹田）
- c. 入会審査手続きについて（竹田）

2009年10月1日

議 長 國枝 秀世◎

署名人 高田 唯史◎

署名人 竹田 洋一◎

## 【評議員会議事録】

日 時：2009年9月15日（火）12:10～13:50

場 所：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟 2F 会議室

出席者：岡村、海部、郷田、柴田、須藤、渡部、家、坂田、杉山、谷口、筒井、観山、望月、山田（以上14名）

書面表決状提出者：井上、中川、永田、池内、佐藤（以上5名）

欠席者：宮川（以上1名）

他に國枝理事長、渡邊副理事長、竹田・高田庶務理事、田代会計理事、本間年会理事、東條事務長、宮下次期事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議長：筒井亮

署名人：郷田直輝、谷口 義明

## 報 告

### 1. 前回議事録の確認

前回（2009年6月27日）の評議員の議事録（資料1）についての確認がなされた。

### 2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の秋季年会のこれまでの進行状況（公開講演会、2件の研究成果〔異常に明るいIa型超新星の発見、ミラ型星の観測による銀河中心までの距離の決定〕の記者会見と報道実績、現時点での参加者数、特別企画など）が報告された。公開講演会は110名の参加者があり、記者発表に対しては地元紙を中心に6紙に掲載されNHK-BSのニュースでも取り上げられた。

### 3. 今後の年会について

前日の理事会で、来年2010年の年会（広島大：3月24～27日、金沢大：9月22～24日）を担当する各開催地理事から準備の進捗状況の報告があったので、その内容を竹田庶務理事がまとめて述べた。いずれも特に大きな問題も無く順調に進んでいる。金沢での秋季年会（金沢大）は日程が大学の行事と重なる可能性が懸念されていたがほぼ予定通りになる見通し。それ以降は筑波大学（2011年春）、東北大学（2011年秋）、京都大学（2012年春）、大分大学（2012年秋）、と2012年まで確定している。

### 4. 「企画展」と「七夕一斉講演会」について

国内を巡回中の企画展示会（上野～仙台に続いて現在新潟で開催中）のこれまでの入客状況などが國枝理事長より報告された。今年はその後名古屋～大阪と巡る予定だが、来年になっても希望する都市が

あれば延長して続けることも検討している。また柴田副理事長より7月上旬に行われた七夕一斉講演会に関して入場者へのアンケートの結果も含めた総括の報告があった。(大変好評で成功だった。若い人が多く聴きにきてくれたのはよかった。)

#### 5. 理事長公選制について

会員による選挙によって理事長を決めるという理事長公選制の制定に向けてここ数カ月間理事長・副理事長を中心に検討が続けられているが、選挙施行細則の試案(資料2)が國枝理事長から説明された。所信表明は必須にするか、立候補者以外への投票も有効とするか、得票が過半数なくても当選にするのか、得票数が同数の場合の処置も決めておかねばならない、立候補者が1人でも選挙をするのか、もし立候補者が出ない場合はどうするのか、再任に対する規定が必要だ、公選制の精神は広く候補者を募ることにあるので理事会や評議員会が候補者を推薦する(立候補がない場合)のはおかしい、そもそも(評議員選挙の実績から見て)1割に満たない投票率で有効な公選ができるのか、など様々な意見の交換があった。これらの声をも参考にして更に細則を改訂していく。

#### 6. 天文学辞典について

「現代の天文学」の残り1巻が今年中に刊行される見通しがついて全巻完結が近づいた現在、総索引を兼ねた「天文学辞典」の刊行を計画していることが資料3に基づき百周年記念出版委員会の委員長でもある岡村氏から報告された。著者の了解を得る必要があるのではないかと、「天文学辞典」という書名は類似のものとならぬのではないか、などの意見が出たが、今はまだほんの企画の段階であり、こういった点はこれからもちろん対処・検討を進めていくとのこと。

#### 7. 年會中會合情報の公開について

前回の評議員会で望月氏から提案された、年會中の委員会や研究連絡会等の各種団体の會合の情報(場所、時間)を次期年會から外部への公開の可否等の情報も加えてプログラムに記載できるようにする件について竹田庶務理事より進捗状況が報告された。年會実行委員会としてはこれを実施することにやぶさかではないそうだが、プログラム掲載のためには年會の3カ月前に申請してもらうことが必要になり、現行の3週間前から大きく前倒しされるのが問題になる。したがって「基本的に受付開始はこれまでよりずっと早めることにして年會3カ月前までに申請されたものはプログラムに掲載されるが、それ以後に申請されたものも従来どおり3週間前ま

でなら(プログラムには掲載されないが)受け付けることにする」というやりかたで行く方向。ただし、学会内で行なわれている研究・社会活動を広く会員に知らせ、交流を活発にするという導入の趣旨に鑑み、各団体はなるべく早期の申請をして會合情報をプログラムに掲載させることが望ましい。

#### 8. IAU 総會、學術會議、長期計画、について

海部氏より今夏にリオで行われたIAU総會の報告と次期総會に関する説明があった。IAUメンバーはすでに1万人を超えたがわが国は約600名で米仏に次ぐ世界第三位を占めている。海部氏は **president elect** となり、次期北京の総會で **president** に選出される予定。総會での話題として、世界天文年の活動は世界的に大成功を収めていること、各国から基金を募って途上国の天文普及支援に力を入れていくこと、などが挙げられた。

続いて海部氏より學術會議からの報告として、大型計画についての今後の新たな方針に関する説明があった。まずいろいろな計画をリストアップしてできるものから実行するというものであり、この學術會議のマスタープランに基づいて文科省がロードマップを作成する。さらに(本日欠席された佐藤評議員の代わりに)學術會議から提示された「天文学・宇宙物理学の展望と長期計画」案(140ページもの文書であるが広く意見を募っている)についての説明が海部氏からなされた。また、この大型計画の話題に関連して「最近朝日新聞にわが国が **TMT** 計画に参加するという記事が掲載されたが、まだ正式には決まっていないことであるので誤解の無いように注意されたい」という指摘があった。

#### 9. 男女共同参画について

男女共同参画委員をも兼ねる望月氏より、配付資料に基づき、男女共同参画学協會連絡会より提示された第4期科学技術基本計画及び男女共同参画基本計画(第3次)への提言案について理事長と庶務理事、男女共同参画委員会で相談、検討した結果、付帯意見付きで承諾し、賛同学会として天文学会も名を連ねることとなった旨の報告があった。また、男女共同参画に関する話題として、『「女性研究者の比率を参考に人事採用するように」との指導があるが、女性研究者の数がどの年齢層でどれだけあるかなど個別分野の実情を理解せずに表面的な数にだけこだわって要求されるのは困る」との批判的な指摘があった。これに対しては「長期的な数値目標を持つこと自体は良いことである」、「いわゆるアフーマティブ・アクションは、首都(圏)か地方か、大学や個人でも立場ごとにいろいろな考え方があり、

難しい問題である」などの意見が出された。天文学会としても天文分野での男女参画状況をこれからもっと調査していく予定である。

#### 10. 会員名簿について

國枝理事長から、昨年発刊された会員名簿が（個人情報保護に配慮した結果）あまりに空白が目立つ無意味なものになったので会員からの厳しい声が出ていることもあり、一年後に迫った次回の名簿をどうするかの方針についてそろそろ準備を始めないといけないことが述べられ、前日の理事会で議論された内容（基本的に会員の所属先だけは個人情報というよりも公に近い情報なのでデフォルトで出さねばならないことについては意見が一致したが、それ以上の住所や電話番号については判断に迷っている）について説明された。これに対して、「恐れることなく、所属のみならず住所や電話番号もデフォルトでは掲載することにして、問い合わせに対して『これこれを出さないでくれ』とはっきり具体的に回答した人のみその項目を伏せることにすべきである、そうしないとまた同じことになる」との複数意見が出された。再度検討してまた次の機会にも具体案を諮る予定。

#### 11. PASJ について

國枝理事長から PASJ に関する報告事項が簡単に述べられた。2008 年の PASJ のインパクトファクターが 4.4 に急上昇し（これまでは 2.0 から 2.5 の間だった）、A&A をも上回ったことは喜ばしいニュースである。これは 2007 年に特集号が三つも出たことの効果があったのではないと思われる。一方、つい最近うっかりしたミスで PASJ 編集業務関係の内部文書がメーリングリストに流れてしまう事故があり、編集部を挙げて再発防止策を講じているところである。

#### 12. その他

渡部氏から配付資料（世界天文年 2009）に基づき、世界天文年の一般活動の経過報告をスライドを交えてこの後の秋季総会で行うことが簡単に述べられた。また國枝理事長から民間の各賞（朝日賞、井上賞、東レ賞など）に天文学会から候補者を推薦することが報告された。

### 議 題

#### 1. 入会申し込み書式

来年度から正会員入会に際して現正会員 1 名の推薦を課するという方針に基づき、推薦人の欄を設けた新たな入会申請書式（資料 4）が紹介され（付記事項の文言における若干の修正があるが）承認された。

#### [次回の評議員会について]

次回の評議員会は 2010 年 1 月下旬に行われる予定。

#### [資料]

資料 1. 前回評議員会の議事録

資料 2. 理事長公選制について

資料 3. 天文学辞典について

資料 4. 入会申込書の書式

（当日配付分）

- a. 第 4 期科学技術基本計画及び男女共同参画基本計画（第 3 次）への提言に関して日本天文学会としての対応について（望月）
- b. 世界天文年 2009 のパンフレット（渡部）

2009 年 10 月 3 日

議 長：筒井 亮◎

署名人：郷田 直輝◎

署名人：谷口 義明◎

### 【総会議事録】

開催日時：2009 年 9 月 15 日（火）16:30～18:10

開催場所：山口大学 大学会館ホール

出席者の確認の結果、事前投票総数（会場参加者との重複は除く）は 371 名、会場参加は 156 名であった（出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした）。有効出席者総数は 527 名で、定足数（正会員総数 1722 名の 5 分の 1 = 344 名）を満たしていることを確認した。議長は定款に則り國枝理事長が務めた。次に署名人として村上浩氏、林左絵子氏が選出された。

#### 議事の経過並びに結果：

1. 竹田理事が資料に基づき、2010 年度事業計画書案の説明を行った（第 1 号議案）。
2. 田代理事が資料に基づき、2010 年度収支予算書案の説明を行った（第 2 号議案）。
3. 田代理事が資料に基づき、会費に関する細則の改定（現行の「前年度 12 月末までに前納」から「当年度 3 月末までの納入」への変更）について説明を行った（第 3 号議案）。
4. 竹田理事が資料に基づき、5 月下旬～6 月下旬に行った選挙で上位の得票を得た第 18 期評議員候補者 10 名（うち再任 5 名）の説明を行った（第 4 号議案）。
5. 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案、第 4 号議案、はいずれも賛成多数で承認された。

各種報告:

1. 竹田理事より資料に基づき 2010 年度から導入される休会制度（学校の休学にあたるもので tennet のメール配信は続くものの会員資格を一時的に停止してその間会費納入は免除するもの）の説明があった。
2. 竹田理事より資料に基づき、内規における研究奨励賞委員会の委員の数を 5 名→6 名に変更した（委員会から増員希望が出たため）旨の報告があった。
3. 世界天文年に関する活動についての報告が、半田利弘氏（巡回展）、柴田一成氏（七夕講演会）、渡部潤一氏（全体的活動）よりスライドを交えてなされた。
4. 委員の海外転任によるメンバー交代（衛星設計コンテスト委員会、選挙管理委員会）、補強のための増員（PASJ 編集委員会、天文月報編集委員会）の報告が資料に基づき竹田理事よりなされた。
5. 来年度から正会員新規入会に際して現正会員 1 名による推薦を課することになったことに因み、推薦人の欄を設けた新たな入会申請書式が資料に基づき竹田理事より報告された。
6. 次期理事長からの実現に向けて制度化を検討している、会員による選挙によって理事長を決めるという理事長公選制について、選挙施行細則試案の資料に基づき國枝理事長から説明があった。
7. 海部宣男氏より今夏にリオデジャネイロで行われた IAU 総会の報告と次期総会に関する説明、学術会議の活動報告（提言、計画への支援、分科会など）、ならびに学術会議から提示された「天文学・宇宙物理学の展望と長期計画」案についての説明がなされた。
8. 國枝理事長より、昨年発刊された会員名簿が個人情報保護に配慮した結果、あまりに空白が目立つ無意味なものになったことに対して会員からの厳しい声が出ていることに鑑み、来年の名簿作成に向けていかにすべきかの方針を検討していることが報告された。
9. 竹田理事より現在は直前に公表されている年会中各種団体の会合の情報（場所、時間）を次期年会から外部への公開の可否等の情報も加えてプログラムに記載できるようにする予定であることが報告された。

2009 年 10 月 1 日

議長 國枝 秀世@  
 署名人 村上 浩@  
 署名人 林 左絵子@

日本天文学会 2009 年秋季年会報告

2009 年秋季年会は、9 月 14 日（月）から 16 日（水）の 3 日間、山口大学（山口県・山口市）にて口頭講演会場 9、ポスター会場 1 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 405 件、ポスター講演が 242 件であり、合計で 647 講演だった。年会参加者は 828 名であった。開催地理事の藤沢健太氏らを中心に山口大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、円滑に進行した。

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9 月 13 日（日）14:00 から、大会会館にて行われた。國枝秀世理事長より挨拶の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関 10 社の出席があった。これらの内容は、9 月 16 日までに確認できたもので全国紙 3 紙、地方紙 2 紙に 5 件の記事として掲載され、その他、NHK のローカルニュースでも報道された。

●研究発表

- (1) 史上最も明るい Ia 型超新星爆発—これまでの「限界」を超えた超新星の発見—

記者会見出席者:

田中雅臣（東京大学）、山中雅之（広島大学）、川端弘治（広島大学）

関連する講演番号: K13a, K14a

- (2) 銀河系の中心に密集する灯台の発見—銀河系中心までの距離の測定—

記者会見出席者:

松永典之（東京大学）

関連する講演番号: N25a

〈天文教育フォーラム〉

天文教育フォーラムは、毎回、天文教育普及研究会との共催として開催されている。今回は、9 月 14 日 17 時～18 時 30 分に「学会によるアウトリーチ支援のあり方」をテーマに開催された。これは、学術研究機関による研究成果の社会への直接還元を目的として近年、急速に広まったパブリックアウトリーチ活動の現状を広く見直し、問題点を洗い出すことで、日本天文学会が行うべき活動を考え直すきっかけとしようという趣旨で開催されたものである。

前半は、それぞれ異なる立場の 4 名の方に講演をいただいた。戎崎俊一氏（理化学研究所）には「自然科学研究者の立場から」として、自らがやっている活動

座長は次の 51 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）。

|   | 9月14日(月)            |                     | 9月15日(火)         |                     | 9月16日(水)         |                    |
|---|---------------------|---------------------|------------------|---------------------|------------------|--------------------|
|   | 11:00-13:00         | 15:00-17:00         | 10:00-12:00      | 14:00-16:00         | 10:00-12:00      | 14:00-16:00        |
| A | 土居明広<br>(JAXA/ISAS) | 川口俊宏<br>(青山学院大)     | 井上昭雄<br>(大阪産業大)  | 本原顕太郎<br>(東京大)      | 森 正夫<br>(筑波大)    |                    |
| B | 岡 朋治<br>(慶應義塾大)     | 峰崎岳夫<br>(東京大)       | 川端弘治<br>(広島大)    | 山村一誠<br>(ISAS/JAXA) | 岩本弘一<br>(日本大)    |                    |
| C | 渡部潤一<br>(国立天文台)     | 磯部洋明<br>(京都大)       | 末松芳法<br>(国立天文台)  | 清水敏文<br>(ISAS/JAXA) | 野澤 恵<br>(茨城大)    | 塩田大幸<br>(海洋研究開発機構) |
| D | 西浦慎悟<br>(東京学芸大)     | 米倉覚則<br>(茨城大)       | 奥田武志<br>(名古屋大)   | 高野秀路<br>(国立天文台)     | 今井 裕<br>(鹿児島大)   | 田中邦彦<br>(慶應義塾大)    |
| E | 大向一行<br>(国立天文台)     | 松本倫明<br>(法政大)       | 犬塚修一郎<br>(名古屋大)  | 鈴木 建<br>(東京大)       | 野村英子<br>(京都大)    | 生駒大洋<br>(東京工業大)    |
| F | 植村 誠<br>(広島大)       | 堂谷忠晴<br>(ISAS/JAXA) | 北本俊二<br>(立教大)    | 大須賀健<br>(国立天文台)     | 福江 純<br>(大阪教育大)  | 松元亮治<br>(千葉大)      |
| G | 富永 望<br>(甲南大)       | 蜂巣 泉<br>(東京大)       | 高田昌広<br>(東京大)    | 千葉証司<br>(東北大)       | 浜名 崇<br>(国立天文台)  |                    |
| H | 藤田 裕<br>(大阪大)       | 山下卓也<br>(国立天文台)     | 早野 裕<br>(国立天文台)  | 小杉城治<br>(国立天文台)     | 高羽 浩<br>(岐阜大)    | 松尾 宏<br>(国立天文台)    |
| I | 樽家篤史<br>(東京大)       | 市川 隆<br>(東北大)       | 三原建弘<br>(理化学研究所) | 藤本龍一<br>(金沢大)       | 大橋隆哉<br>(首都大学東京) | 田代 信<br>(埼玉大)      |

や出身地である山口県での状況を紹介していただいた。黒田武彦氏（兵庫県立西はりま天文台公園）には、「社会教育施設の立場から」として、主に、日本天文学会がこれまで行ってきた広報普及に対する支援活動をまとめていただき、予算規模・活動規模などについて具体的な提言をいただいた。千頭一郎氏（鹿児島県立鹿屋高校）には「学校教員の立場から」として、これまで赴任したいくつかの高校での経験を元に、研究者が学校などで特別授業や講演をする際の留意点や授業教材を作成するに際して最も問題である点を具体的に指摘していただいた。原辰彦氏（日本地球惑星科学連合・建築研究所）には「他学会の状況」として、日本地球惑星科学連合での支援活動を紹介していただいた。

後半は、発表内容を元に 4 名の講師をパネラーとして会場からの意見を取りつつ、半田利弘（天文教育委員長・東京大学）の進行で議論を行った。教材作成に必要な資料としてはパッケージ化されたものよりも現場の判断で加除加工可能な素材の方が望まれること、従来の講師派遣プロジェクトの問題点、日本天文学会では各種の普及活動が時期的に先行したものの日本地球惑星科学連合と比べると体制が不統一なところが問題で整備が必要であることなどが指摘された。会場からも盛んに意見が出され、短い時間ながらも示唆に富む有意義な議論をすることができた。今後、日本天文学会天文教育委員会を中心にさらに具体的な議論を進

め、何らかの改善策を打ち出したいとして、全体を結びとした。（半田利弘）

#### 〈通常総会〉

「通常総会報告」（827 頁）を参照。

#### 〈懇親会〉

懇親会は 9 月 15 日（火）に学内の第二学生食堂「きらら」にて 18:00 から開催された。参加者人数は、事前予約 275 名に加え、年会受付での申込者および現地実行委員会を合計して総勢 372 名であった。國枝秀世理事長からの開会挨拶、山口大学大学院理工学研究科の増山博行教授による歓迎の挨拶のあと、海部宣男先生に乾杯の音頭を取っていただいた。和洋中折衷の料理に加えて山口県の名物料理瓦蕎麦、地元産のフルーツなどを味わっていただいた。会の途中で次期開催地広島大学の小嶋康史氏、山口県出身の岡村定矩氏ほか、多くの方にお言葉を頂戴した。閉会の挨拶のあと、賑やかに懇談が続いていた。（藤沢健太）

#### 〈保育室〉

保育室は山口大学の学生会館 2 階和室を使用した。7 家族、子供 8 人の利用があった。保育者の派遣は株式会社ヤクルト山陽プティット事業部に依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあた

り、山口大学の藤沢健太氏ならびに同大学教員および学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。  
(奥村幸子, 岡 朋治)

〈公開講演会〉

研究発表講演の前後の1日を選んで一般市民向けに講演会を毎回開催している。今回は、9月12日(土)13時30分～16時に山口大学構内の大学会館ホールにて、「宇宙の観測—歴史の中と最先端と—」とのテーマで行われた。雨天にもかかわらず約110名という多数の熱心な来場者に恵まれた。

半田利弘天文教育担当理事の司会による國枝秀世理事長の挨拶に続き、まず、戎崎俊一主任研究員(理化学研究所)の講演「宇宙から来る不思議な粒子—宇宙線の研究最前線—」が行われた。ガイガー計数管を使った宇宙線の実測から始まり、その歴史の紹介、国際宇宙ステーションに搭載を検討している超高エネルギー宇宙線観測計画EUSOの紹介がなされた。後半の、松尾厚学芸員(山口県立博物館)の講演「日本の天文史めぐり—星空のもう1つの楽しみ—」では、北は北海道から南は沖縄まで、日本各地に残る天文関連の史跡が豊富な写真を交えて紹介され、天体を調べるのとは異なった天文関連の研究対象について紹介がなされた。各講演の後には長めの質問時間を設けたが、熱心な質問が相次ぎ、来場者の関心の高さがうかがえた。会場には地元にある中原中也記念館館長も訪れ、館長と戎崎主任研究員とが地元山口県で高校の同級生だったという紹介もあった。

前回に引き続き、アンケートを実施し回答数70を得た。数年程度は継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考とする考えである。

なお、本企画は世界天文年2009日本委員会公認企画として認定され、世界天文年2009日本委員会、山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、山口県立

山口博物館、防府市文化振興財団・防府市青少年科学館、NHK山口放送局、tys テレビ山口、KRY山口放送、yab山口朝日放送、エフエム山口、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、中国新聞防長本社、山口新聞社、日本経済新聞社、山口大学の後援で実施された。  
(半田利弘)

(年会実行委員長: 本間希樹)

## 編集委員会より

### 2010年表紙デザイン決定

応募作品3件の中から編集委員会での選考の結果、松岡健太さん(愛媛大学M2)のデザインを採用させていただきますことになりました。2010年1月号からお楽しみください。

### 訂正

天文月報第102巻11号(2009年10月20日発行)の目次に2箇所誤植がございました。

お詫びして訂正いたします。尚、今月号に差し替える訂正済み目次を添付しております。

- 1: (誤)「すばる」特集 → (正)「あかり」特集
- 2: 福江氏の記事「見えない影が現れた」は、  
特集: 銀河中心 Sgr A\*とブラックホール時空(1)の中の記事です。

2009年11月号人事公募結果に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

誤) 公立大学法人大阪府立大学理学系研究科 専任教員  
正) 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻教員

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード vol98 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成 21 年 11 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2009 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)